



4月14日に市議会議員選挙が行われました。
この号がお手元に届くころには、新しい議員
での議会が始まっていることでしょう。

3月定例会 3月1日～3月22日

主な内容

- 本会議のあらまし …………… 2
- 平成24年度関係議案質疑、討論 … 3
- 総括質疑 …………… 4～9
- 委員会審査 …………… 10～11
- 平成25年度関係議案討論 …………… 11
- 議案の内容 …………… 12～13
- 議会の動き …………… 14
- 審議した議案と結果 …………… 14～15

3月定例会

平成25年度一般会計予算 410億円 原案のとおり可決

本会議の あらまし

3月定例会は、3月1日から22日まで22日間の会期で開かれました。

初日にまず、副議長選挙を行いました。立候補の届け出が1名であったため、指名推選により内田俊英議員が副議長に選出



所信を表明する市長

されました。

その後、平成24年度関係12議案を審議。議案第1号の専決処分を承認し、残りの11議案は委員会付託を省略し、2名が質疑を行いました。

議案第2号について1名から反対討論があり、同議案を分離して採決した結果、賛成多数で原案を可決し、残りの第3号から第12号までは、一括採決により原案を可決しました。

続いて総額410億円の一般会計予算など25年度関係28議案が上程され、市長から所信表明と副市長から提案理由の説明がありました。

5～8日は、新年度予算や市政全般について、13名が総括質疑を行いました。

総括質疑終了後、25年度関係議案は各委員会に付託され、11日に教育民生、12日に生活環境、

13日に都市経済、14日に総務の各委員会で、審査が行われました。

22日の最終日は、委員会に付託していた議案の審査結果について、各委員長からいずれも原案承認の報告がありました。

2名が議案第13号、14号、22号、23号、第27号について反対討論を行ったことに伴い、同議案を分離して起立によって採決し、賛成多数で可決しました。

また、議案第15号から21号、24号から26号及び28号から40号までは、一括採決により原案を可決しました。

その後、諮問第1号「人権擁護委員候補者の推薦」について同意し、また、議員派遣を可決しました。

最後に議長と市長からあいさつがあり、今期定例会は閉会しました。

人事案件

今期定例会に提案された人事案件は次のとおりです(敬称略)。

▼人権擁護委員候補者

- 南条町 原田 義郎
- 綾歌町富熊 高木 益生

新副議長の紹介



丸亀市議会
副議長

内田俊英

《主な経歴》平成11年5月丸亀市議初当選以来、旧丸亀市議2期、新丸亀市議2期目。教育民生委員長、議会運営委員長、議会改革特別委員長などを歴任。

委員会委員の変更

生活環境委員長

(旧) 吉本 一幸

(新) 尾崎淳一郎

お知らせ

・浜西和夫議員が2月4日付
けで辞職されました。

議会に関する意見・感想募集します。



【連絡先】

丸亀市議会事務局
TEL 24-8828
丸亀市大手町2-3-1

メールアドレス
gikai@city.marugame.lg.jp

平成24年度関係議案に対する

質疑

質問者・項目

太字の項目は要約文を掲載

>

三木 まり

①一般会計補正予算（地域の元氣臨時交付金、男女共同参画費、湯水対策費）

中谷真裕美

①一般会計補正予算（地域の元氣臨時交付金、介護用品等購入助成費）

雨水貯留施設設置補助制度PRを

◎三木議員 湯水対策事業費の雨水貯留施設整備への補助金などの予算が大幅に減額補正されているが、PR不足なのではないか。平成24年度の取り組みと25年度の取り組み予定は。

▲上下水道部長 既存浄化槽の転用6件で30万円、雨水貯留槽の新規設置15件で75万円、雨水浸透施設設置10件で20万円、合わせて31件、125万円を予算計上していたが、1月末時点

質疑・討論

で予定数に達しないことが予想されたため減額補正した。

利用件数が少なかった最大の原因は、補助制度の趣旨や内容などのPR不足ではないかと考えている。

24年度は、下水道課で行っていた雨水貯留槽の展示を多くの市民の目に触れる庁舎玄関ロビーでの展示に切りかえたり、綾歌ふるさとまつりでPR活動などを行ったりした。

25年度は、下水道管整備の地元説明会で補助制度の説明を行ったり、下水道や合併処理浄化槽などの検査時に業者やお住まいの方にパンフレットなどで制度の説明をしていきたい。



市役所ロビーで展示

紙おむつ購入助成要件緩和を求む

◎中谷議員 紙おむつの購入補助を希望する人は多いが、本

市の場合には助成の対象要件が大変厳しい。一方では、かなりの減額補正をしている。補助の対象範囲を広げるなり、要件を緩和するなど、介護用品等購入助成費の制度の見直しが必要ではないか。



▲副市長 本市の介護用品等購入助成制度は、月額1万5000円と、県内でも手厚い助成を行っているが、助成総額は年々減少傾向にある。

主な要因は、支給対象者数の減少であると思われる。合併時の対象者は約160名であったが、今年度末は70名を切る見込みである。

加えて本市の助成制度は、いわゆる寝たきり度の高い方への手当支給の制度からスタートしており、結果的に新規の助成対象者を制限していた。

今後は幅広く在宅介護者を支援していく制度として、寝たきり度にかかわらず、在宅で紙おむつ等の使用が必要な方を対象に介護用品を現物支給するなど、使いやすい制度に見直していきたい。

討論

平成24年度関係議案に対する

〈反対討論〉 尾崎淳一郎

議案第2号 一般会計補正予算中の総合運動公園野球場整備事業費

理由 小・中学校の改築や耐震改修促進事業など、市民の安心・安全につながる事業を優先した補正予算は評価できるが、なぜ野球場建設を急ぐのか。

市民の生活に密着したものが優先すべきであり、もっと暮らしに目を向けるべきである。わざわざ補正予算を組んで野球場建設を前倒しすることには賛成できない。



総合運動公園野球場完成予想図

13人の議員が 市の考えを問う

総括質疑

質問者・項目

太字の項目は本文中に要約文を掲載

松浦 正武

①コミュニティバス・生活バス路線等運行維持費②食育の推進

高木 新仁

①予算編成の基本姿勢と重点事業②子ども・子育て関連3法への対応③公共施設の耐震化④定住自立圏構想⑤小・中学校の体罰問題

三宅 真弓

①施設改善後の競艇事業②消防通信指令業務の一本化

横川 重行

①安全社会の実現（公共施設の耐震化など）②T P Pに対する見解と農業予算③市をPRする広報活動

小橋 清信

①過去の震災の検証とまちづくり②中津万象園の活性化計画③産業振興計画に基づく商

店街活性化④うちわ物産館の基本構想とうちわの港ミュージアムの跡地利用

大前 誠治

①交通事故防止策と交通安全教育②体罰の考え方と現場での対応

藤田 伸二

①議案第24号と第36号②市長等特別職の退職手当ての取り扱い③定員適正化の現状認識④職員給与削減要請に対する見解⑤電気料金値上げへの対応⑥交通事故抑止対策

小野 健一

①県内1水道と施設の耐震化②家族重視と子育て支援策

福部 正人

①ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくり②大人用おむつ交換台の設置促進③在宅介護者への支援拡充④「認知行動療

法」の普及啓発⑤学路のカラー舗装⑥丸亀の魅力をアピールする写真コンテスト

中谷真裕美

①子育て支援の抜本的強化と子ども・子育て会議②ひとり親家庭への支援③放課後子どもプラン④シルバー人材センターに対する評価と支援⑤生活習慣病予防への総合的取り組み

三木 まり

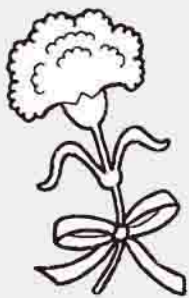
①体罰の実態調査と対応②学校図書館の現状と子ども読書活動推進計画

加藤 正員

①綾歌・飯山市民総合センターの役割と今後②通学路整備とカラー化③岡田久次郎の評価と子どもたちへの普及

尾崎淳一郎

①生活保護基準の改定による市民への影響②住宅リフォーム助成制度



公共交通利用促進

コミュニティバス活用を

松浦議員 公共交通の利用促進策として、コミュニティバスが各コミュニティや学校などへ出向いて、実体験をさせるといった活動が重要ではないか。その活動の効果として、交通への関心の高まりや、交通安全に対する心構えも違ってくる。コミュニティの方に伺った。本市ではどのような実施状況にあり、今後の活動はどのように進めるのか。

また、コミュニティバスや路線バスなどの広告スペースを動く美術館として活用し、発表の場にしてはどうか。

A 生活環境部長 現在、運行事業者が主体となり、幼稚園や保育所の子どもたちを対象にコミュニティバスの乗り方教室を行っている。

実際にバスを幼稚園などに持っていく、停車した状態ではあるが、子どもたちにバスを降りる際にボタンを押してもらったり、運賃箱に料金を入れてもらったりなどして、乗車体験をし